

静岡文化情報

街かど

No.2

1995.2

●静岡市の風土と文化

静岡大学教育学部教授 小和田哲男

街かど文化

●七間町・映画と文化

静活株式会社社長 江崎善三郎

中勘助文学記念館(仮称)開館に向けて

●先生と私 -酒と手紙-

随筆家 稲森道三郎

文化のルーツを求めて②

●漆器の魅力

静岡市伝統工芸技術秀士 鳥羽鎌一



金剛石目塗・花瓶(写真左)と椀
静岡市伝統工芸技術秀士 鳥羽鎌一作

財団法人 静岡市文化振興財団

静岡市の 風土と文化

静岡大学教育学部教授
文学博士

小和田 哲男



駿府は日本の首都

静岡県内でも、静岡市とその周辺の人はおっとりしているなどとよくいわれます。比喩的にいわれる浜松の「やらまいか」に対し、静岡の「煮えたら食わぎー」という言い方が象徴的でしょう。

西の方が遠州名物空っ風で、気候的に駿府よりきびしいという自然条件も関係していますが、実は、「やらまいか」と「煮えたら食わぎー」のちがいは、歴史の流れによっても説明できるのです。とい

うのは、江戸時代の260年間、駿府は幕府の直轄支配が行われていたからです。

駿府は、徳川家康が晩年の10年間をすごしたところで、その時代を「大御所時代」とよんでいます。駿府は、将軍のいる江戸とならんで日本の首都となっていました。家康死後、家康の十男頼宣が入り、頼宣が紀州和歌山に移っていったあと、しばらくして三代将軍家光の弟忠長が駿府に入っています。要するに、そのころには、「駿府は徳川家にとって特別なところ」という意識が生まれていました。

他力本願

「煮えたら食わぎー」

忠長が改易されたあと、駿府には大名が入りませんでした。これが、静岡市の風土と文化を語る場合、特に大事な点です。江戸時代を通じて、江戸幕府を開いた家康は、幕府としても、また、徳川家の人間にとってもまさに神様でした。「東照大現権」であり、「神君家康公」だったわけです。その家康ゆかりの駿府に、ふつうの大名を入れるのは恐れ多いということになり、駿府の城と町は駿府城代

CONTENTS

静岡市の風土と文化 静岡大学教育学部教授 小和田哲男	1
街かど文化ーぶらっと出掛けて楽しめる	
七間町・映画と文化 静活株式会社社長 江崎善三郎	4
気楽に楽しめる街かど文化	5
中勤助文学記念館(仮称)開館に向けて	
先生と私ー酒と手紙ー 随筆家 稲森道三郎	6
文化のルーツを求めて ㊦	
漆器の魅力 静岡市伝統工芸技術秀士 鳥羽鏡一	8
静岡音楽館A O I	
心に響きわたる本ものの感動を求めて	9
がんばってます!! 市民の文化活動	
シューマン研究会・シズオカフォトレディース・ひま研究所	10
INFORMATION	12
編集後記	13



文化4年(1807)頃の府中宿(出典・東海道分間延絵図第7巻 東京美術刊行より)



駿府町奉行所は、今の市役所の場所にあった。石碑は、市役所本館（中央警察署側）にある。

と駿府町奉行が管理することになりました。

他の地域は、大名や旗本の領地となり、たとえば、大名たちは、自分の居城が壊れれば、自分で直さなければなりません。居城にかぎらず何事においても自力でやるしかなかったわけです。ところが、駿府とその周辺では、駿府城の石垣が崩れたりしても、幕府がやってくれました。「何事もお上がやってくれる」という他力本願の性格が形作られ、それが、「煮えたら食わぎー」になってしまったわけです。

* *

駿府城代は転勤族

文化の面でも同じことがいえます。大名がいれば、その大名が長く同じ土地に根をおろせばおろすほど、独特の文化が育ったわけですが、駿府城代は「転勤族」でしたから、残念ながら、特徴ある文化はなかなか育ちませんでした。

せつかく、今川文化という、「戦国三大文化」の一つに数えられるすぐれた文化を生んだ土壌があったにもかかわらず、その遺産を十分に生かすことができなかつたのは、本当に残念なことだったと思

います。ようやく、最近になって今川文化に光があてられるようになり、見直されつつあることはうれしいことです。

文化への“無投資”

そしてもう一つ、駿府の時代、さらに静岡となった近現代においてもそうですが、そこに住んだ人が文化にあまり“投資”してこなかった点も指摘しなくてはなりません。

町の比較研究をしていて気がついたことを一つ紹介しておきましょう。京都では、商家が軒を連ねて



駿府城巽櫓と建設が進む東御門



今川氏最盛期に静岡浅間神社の大祭に奉納された、静岡浅間神社廿日会祭の稚児舞（昭和63年県指定無形民俗文化財）

おり、いくらもうかって、店の間口を広げることはできません。どうしたかという、もうけた金で事業を拡張するのではなく、その分を文化に“投資”したのです。商家の大旦那が祇園に通ったり、能・長唄・謡曲などの芸事を習い、それを育成したわけです。そこそこのもうけがあって、店がつぶれさえしなければよいという考え方、その余裕が文化を育んだわけで、いまの私たちが学ぶ必要があるように思います。

昨年、「同情するなら金をくれ」という台詞がはまりましたが、「文化をいうなら金を出せ」というところでしょうか。パトロンがいな

いところに文化が育ちにくいという点も歴史の教えるところでは

廊下文化の得失

なお、静岡市にかぎらず、静岡県全体がある意味ではそうなのですが、よく、「回廊文化」という言い方をします。ちょうど、東京と京都・大阪の中間で、東の文化と西の文化が入りまじり、しかも、それが定着しないで、ただ往ったり来たりしているという認識です。要するに、東海道は廊下であって、床の間とはなりえないと理解されてきました。

たしかに、その側面はあります。しかし、街道沿いだからこそ得られたプラス面もあったのではないのでしょうか。昨今、「情報化社会」ということが盛んにいわれるようになりましたが、静岡市とその周辺の人びとは、遠く鎌倉時代の昔から、東西交通の要衝に住んでいたことになり、「情報」の中で生活していたといっても過言ではありません。

要は、その「情報」をいかに取り込んで自分のものにしていくかです。これまで、取り込み方があまり上手ではなかったといえるかもしれません。

* *



静岡は人と情報が行き交う要衝の地である。

ぶらっと出掛けて楽しめる

七間町・映画と文化

静活株式会社社長

江崎善三郎



映画はフランスのリュミエール兄弟によって1895年に発明され、今年で100年を迎える記念すべき年です。静岡では1900年頃、若竹座（駿河町）の前身である玉川座で最初の活動写真が上映されました。

駿府城から西へ一直線上にある七間町通りは東海道五十三次の道筋でもあり、「芝居小屋」「寄席」が点在し賑やかな「通り」であったと想像できます。こうした「小屋」「寄席」が大正時代になりますと活動写真館に衣替えし、活動写真は大衆娯楽として親しまれ映画館文化の始まりでした。活動写真は無声映画であり、活動写真弁士（活弁）の喋りにお客さんは拍手

喝采を送り、映画館におけるスターでもあったのです。

昭和6～7年頃、映画はトーキー化され、活動写真から「映画」と呼ばれ、「トーキーによる上映は映画史上特筆に価する」と当時の新聞に記されていますし、「静岡シネマリーグ」という映画ファンクラブも誕生しています。映画の黄金期であったこの時期は強烈なエネルギーをもって開花し、様々な秀作を残し、夢を求めての娯楽作品が数多く見られました。

やがて、思想統制、戦争による燈火管制という暗い幕がおろされました。七間町の映画館も静岡大火、戦災と二度の罹災を受けますが、復興の混乱期はこれといった

娯楽もなく外国映画は見るもの聞くものすべて新鮮であったし、新しい息吹きを伝え、人々に勇気と活力を与えてくれました。まさしく生きた教材でもありました。昭和20年代後半～30年代前半にかけて、七間町通りとその界隈に娯楽の殿堂といわれた瀟洒な映画館が立ち並び、全盛期が到来しました。思えば懐かしい名場面の数々を青春時代の一コマとして思い出される方は多いのではないのでしょうか。

当時唯一の娯楽として親しまれた映画も、昭和33年をピークに観客数は徐々に減少の一途を新しい時代と共にたどり始めます。ビデオの急速な普及とビデオソフトとしての商品化は、映画館への足を



◀昭和32年（1957）頃の七間町通り映画街

ブラウン管の前に止めさせ、それは映画が映画館産業から映像産業へと移行していく流れでもあり、若者の嗜好の変化、娯楽の多様化は経済成長と共に拍車がかかり映画館離れを顕著にしています。しかし、映画館の暗闇の中で観賞する映画の興奮と感激は他では決して味わえないものであります。

映画を通じて人間を、人生を学んできた人は多く、映画はいつの時代でも無限の楽しさを秘めて人々を魅了し続けます。



▲ 舗道に撮影機も陳列されている七間町七ぶらシネマ通り

気楽に楽しめる街かど文化

「地域の文化」が問われているこの頃ですが、ちょっと考えてみても「文化」という言葉は解りにくいものです。

思いきって平たく言わせてもらえば、私たちの「暮らし方」とでもいうことになりましょうか。

静岡の街で買いものをする、公園で憩う、食事に行ったり役所に行く、なんとなく街をぶらつく、これらは皆私たちの暮らしのひとコマと言えましょう。

わざわざ構えて出掛けなくても、暮らしの中の街かどで文化に接することができれば、こんなに楽しいことはないと思います。市文化振興財団では、市教育委員会や市民の方々により構成された文化団体と一体となって暮らしの中の街かど文化を催しています。

例えば、そのものずばり「街かどコンサート」、昼休みに市役所ラウンジを使って行われる「Hotひといきコンサート」、「しずおかわさび寄席」、「公民館を使った親と子を対象とした演劇」、暮らしの中からにじみでた「市民芸能発表会」等々、いずれも人気は高いものです。

また、市が行っている「大道芸ワールドカップ」は、街かど文化

の典型として年々充実しています。そして多くの人々をひきつけ全国に知られるまでに高まっています。

これからも、市民の皆さんの暮らしと直結した文化活動を、市民の皆さんの声をうかがいながら盛んにしていきたいと考えています。（文・事務局）



▲ 昼休みのひとときを音楽で（市役所 | 階ラウンジ）

先生と私

— 酒と手紙 —



随筆家 稲森 道三郎

私が始めて中勤助先生の旧服織村の寓居をお訪ねしたのは敗戦の年の晩秋、昭和20年11月のことであった。その時先生60歳、私が22歳であった。

粗末な書棚を背にした和服姿の先生はたいへん立派な風貌の方で、声は凜としているが余り話をなさらず、鋭い視線で時々チラッと私を見るのがこわかった。後で思えば人見知りの強い

者同士の初対面であったから、むしろ当然のことであったといえよう。

その後、伺う度に少しずつ親しさを増した。年が明けて正月の3日、先生と酒を飲んで大酔したのだが、これが先生と私がわけへだてがなくなる一つのキッカケとなった。私は先生に「あなたの酒は、いい酒だ」と褒められた。まずは合格であった。先生はたいへんお

酒が好きで強かったが、いくら飲んでも決して姿を崩すことがなかった。恐らく色々な意味において酒に乱れる酒飲みは嫌いだったに違いない。後日、先生は「極めて短時日のうちにあなたとこんなに打ち解けた間柄になったのは、一つにはお酒の功德というものですな」といって大笑いされた。そういわれてみれば、先生と私は酒量も酔いっぷりも大体同じであった。

酒の功德と同じようなことが手紙にもあったかも知れない。手紙の功德である。

後年、先生の通夜の席で、隣席の安倍（能成）先生が「中は手紙と日記を書くために生まれてきたような男だった。稲森君も手紙を沢山貰ったろう」といわれた。その通りだったが、実は私も手紙を書くのをおっくうに思わない方だったので、その点はいいこであった。

3日にあげず自転車を走らせて先生宅へ訪問するというのに、その間を縫う様にして先生と私の手紙の往復が続いた。だから、先生からの返信が届かぬうちに私がお宅へ伺ったり、私の返信が先生の許に着く前に、私が先生宅を訪れることなどしばしばであった。

先生からの手紙—奥様代筆を含めると—は1,000通にも及ぶ。だから私も同数あるいはそれ以上先生

宛に手紙を書いた筈である。

先生は度々「あなたとこんなに親しくなれたのも不思議な御縁としか言い様がない」といわれたし、私もその通りだと思っているが、ただそれだけだとも思わない。

私が始めて『銀の匙』（岩波文庫）を読んだのは、昭和15年である。それから先生との出会いの日まで私は中勤助の著作の殆どを苦勞して買い集め、そして熟読し、中勤助を渴仰した。この私の情熱と努力の積み重ねの果てでの中勤助との邂逅、即ち不思議な御縁の発生であった。ともあれ、それは単なる偶然ではなく、そこにはある必然性があったのだと私は思う。その後、先生逝去迄の20年間は、先生と私との一対一での勉強であり修練の期間であった。勿論のこと先生が慈悲と薰陶を授ける立場にあり、私がそれらを受ける立場で

はあったのだが。だから、私も、私の母も先生の所を「中サン大学」と呼んでいた。

不思議な御縁は、それが恵まれる様な必然的な培地が必要だし、その上御縁に恵まれたからには、その御縁を大切に育てあげる情熱と努力の積み重ねがなければ、折角の出会いもただ単なる行きづりの人で終わってしまう。

しかも、更にこの本質的な条件だけでは完全なる人間関係は成熟しない。それ以外の一見些細なことと思われる小さな条件も又大切なのである。先生の奥様や私の母も協力者として欠くことのできない大切な存在であったし、「酒の功德」や「手紙の功德」も小さな条件として無視することは不可能であったであろう。



▲若かりし頃の中勤助先生(右)と
筆者・稲森道三郎氏(同氏撮影)

往時の杓子庵▶
(稲森道三郎氏撮影)



◀復原された杓子庵



漆器の魅力

静岡市伝統工芸技術秀士 鳥羽 鏡一

私達日本人は、大変古くから漆との付き合いがあります。

英語で「JAPAN」は「日本」、小文字で「ジャパン」は漆と漆で出来た品物のことをいいます。漆芸はわが国で特にすぐれた発展をとげ、日本が世界に誇る工芸品の一つであります。漆器をさして「ジャパン」と呼ぶのも、日本が漆の本場だと世界が認めているということです。因に、隣の国「中国」は「china」で陶磁器をいうのと似ています。

石器時代より漆を使って生活し、後に大きな建築に至る、神社、仏閣、仏像、厨子、神具、仏具、生活のための調度品、飲食器、乗物等色々な用途に利用され、さまざま

な技術を発展させて来ました。今日でいう異業種交流が行われていたのです。

ここで皆様が三度三度の食事に最も緑の深い器「わん」について申し上げます。一口に「わん」といっても、鉢、碗、椀の3種類に大別できます。おのおのの字の偏で察しがつくように、「鉢」は金属製で、古くは正倉院の宝物に数多くみられます。「碗」は陶磁器で毎日良く使われている器です。「椀」は木製です。

この木の椀には、昔から漆が塗られています。漆は何千年も前から、さまざまな用途に使われてきましたが、なかでも漆と椀との関係は、古代から今日まで続いてきていま

す。それは、漆の特性を生かした用途として、椀の右に出るものは過去にも現在にもないからです。

「わん」には、いくつかの条件が必要です。熱湯に耐え、塩、味噌、砂糖、醤油、酒、酢、その他さまざまな調味料や食糧に耐えねばなりません。その上御馳走が冷めぬような保温の持続性が必要であります。又、食器である以上は衛生的で、手に持つから重量感が望まれるし、いくら熱湯を入れても手で持てなければなりません。舌や唇の触感覚もきわめて大切であります。さらに、形、色、デザインなどの美的感覚の芸術性が強く要求されるものです。

こうした諸条件を十分に満たすものが、漆の椀であります。

先人の作ったすばらしい漆器の伝統技術を、次の世代へと伝えて行くことが、今に生きる私達の大きな仕事だと思います。

▼作品を手にする鳥羽鏡一氏

現在、(財)静岡市文化振興財団評議員。静岡漆器工業協同組合理事長。静岡県郷土工芸品振興会々長。他(馬淵2丁目在住、62歳)

鳥羽鏡一氏プロフィール

漆器制作に砂を使う研究をし「金剛石目塗」の創始者である鳥羽清一氏の長男として1931年に生まれました。

鏡一氏は、清一氏の没後わが国でも画期的な発案である独自の蒔地(下地法)の技法を引き継ぎ、現在もその蒔地法を励行している日本でただ一人の工芸家であります。

その実績が認められ、1962年には静岡県無形文化財(金剛石目塗)保持者として、亡父の指定解除と同日に指定されています。

1991年には漆塗師として静岡市伝統工芸技術秀士に指定されました。



静岡音楽館AOI

心に響きわたる本ものの感動を求めて

静岡駅前に本格的な音楽専用ホールが、いよいよ完成します。

静岡音楽館AOIは、自主事業として、年間30数回の公演を皆様にお届けするとともに、皆様方にご利用いただく施設です。5月9日(火)にオープンし、数々の公演をお届けしますが、オープンに先立ち行うプレコンサート、音楽祭のチケットの発売、友の会の会員募集、また、音楽館の利用申し込み、利用料金などについてご紹介いたします。

●プレコンサートにご招待…

月日：4月14日(金)～16日(日)の3日間で12回公演。

申し込み：往復ハガキに住所・氏名・電話番号・希望する演奏会番

▶シユースボックス型ホール(六八席)



号を記入し、3月10日(金)までに

〒420 静岡市黒金町1-9 静岡音楽館AOIへ(ハガキ1枚で1演奏会に応募できます。)

●友の会会員を募集中…

年会費：個人2,000円、法人1万円
特典：自主事業の入場料を10%割引、演奏会の情報などを満載した会報の郵送。特別演奏会へのご招待など。

●音楽祭「春のシリーズ」のチケットを好評発売中…

5月9日から6月14日まで11回の公演について、静岡音楽館AOI事務室、県内JR主要駅、すみや本店、静岡谷島屋本店、西武チケットセゾンで発売しています。

●静岡音楽館AOIの利用申し込み・利用料金…

施設：618人収容の音楽専用ホール、多目的にご利用できる講堂(イス席のみ300人、机席180人収容)と、約100㎡のリハーサル室など。
休館日：月曜日、年末年始など。
申し込み：音楽ホールは1年前、講堂は6か月前、リハーサル室は3か月前より受付ます。

申し込み・問い合わせは
静岡音楽館AOI
(☎054)251-2200) へどうぞ

◀練習に使用する場合は、半額になります。

使用料(ホール)		午前	午後	夜間
徴収の区分	使用日	9:00~12:00	13:00~16:30	17:30~21:30
入場料等を徴収しない場合	平日	29,000円	36,000円	45,000円
	土・日・休日	34,000円	43,000円	53,000円
入場料等を徴収する場合	1円~1,100円	平日 37,000円 土・日・休日 44,000円	46,000円 56,000円	57,000円 70,000円
	1,101円~3,100円	平日 49,000円 土・日・休日 60,000円	63,000円 76,000円	78,000円 94,000円
	3,101円~5,200円	平日 68,000円 土・日・休日 81,000円	86,000円 102,000円	106,000円 127,000円
	5,201円以上	平日 88,000円 土・日・休日 104,000円	112,000円 132,000円	140,000円 164,000円

がんばっています!!
市民の文化活動。

ピアノ曲の研究を深める

シューマン研究会会長 高原 節子

ピアニスト4名が語り合っ
て、ピアノ演奏のみでなく、
ピアノ曲の学問的研究を深
めようと、ドイツロマン派
を代表するロベルト・シュー
マンの作品を、作曲年代順

に解説、演奏する会を発足
させました(会員40名)。

平成元年9月に最初の研
究会を開催し、以来年に5
回の例会と、時に応じての
問題点をとりあげる



◀ピアノ三重奏

ファインダーを通した女性の目

シズオカフォトレディース会長 山本 はま子



◀白馬の塩の道(H6・6・16)

特別例会を年に1~2回開
いています。シューマンの音楽
の背景となる文学、政治の流
れなどの研究と共に、静岡
県在住の音楽家に研究の場
を提供することも目的とし
ています。

対象は、ピアノ曲、歌曲、
室内楽、オペラ、交響曲な
ど広範囲に及び、現在私達
の歩みは40歳前後のシュー
マンの作品となり、2月の
例会ではop.79の「子供の
ための歌のアルバム」をとり
あげます。

現在スタッフも10名となり、
とかく鋭角的になりがちな
現代に、美しい幻想に満ち
たシューマンの音楽を求め
ていくことは、大変意味の
深いことと一同頑張ってい
ます。

入会ご希望の方は、静岡
市馬淵2-5-28.高原節子
(☎285-1759)までご連絡
ください。

平成元年の秋、市写真連
盟会長・海野幸正先生の「
女性初心者カメラ講習」が
あり、初歩から学ぶことが
でき、翌年3月に女性カメ
ラグループとしてシズオカ
フォトレディースが誕生し
ました。例会は月1回とし、
第2金曜日に文化会館をお
借りして各自作品を持ち
寄り、先生のご指導のもと
精進を続けています。会員
は現在15名程です。

30代から80代の方の意
見や経験を大切にして、日
帰りあるいは一泊の撮影会
を開催しています。撮影先
は花の鎌倉と社寺、梅池の
水芭蕉、塩の道等々です。
また、経費の面も安くなる
よう工夫し、国民宿舎や
「青春18きっぷ」を利用し、

面打ちの女たち

ひま研究所 野元 登久子

男性によって長い歳月伝
承されてきた能の世界が、
女性を受け入れられるよう
になったのは極く最近のこ
とですが、まだまだ男性の
後塵を拝するという実情で
す。

昨年春、そういう永い習
慣を破って女だけの能面展
をと呼びかけたのが、面打
ち仲間の先輩女性中村さん
でした。打てば響くように
賛同してくれた女性は、小
学生から喜寿のおばあちゃん
まで22名。面打経験も様
々ですが、面に魅せられ、
面に心を打ち込むことを
至上の願いとする意気盛
んな仲間が、たちまち結
束し、中村さんをリーダー
として企画から実施に向
けて

発足しました。

そして昨年4月、聞くところ
によると、全国初の女性
だけの能面展が実現しま
した。忙しい仕事をもつ
女性たちが、どうして制
作の時間を生み出したか、
度々受けた質問ですが、
熱中することで時間を奇
跡的にうみだせたもの
と思います。

これからも手に豆を作り
ながら、能面づくりに心
を打ち込み続けてゆく
つもりです。

入会ご希望の方は、静
岡市中島430-5.野元登
久子(☎281-4824)まで、
ご連絡ください。



◀能面づくりに心を打ち込む

会員の夢を大切に、30代
から80代の方と手を取り
あいグループの和を大事に
しています。

会員の方々の声として、
今年の夢は、女性の目
でみた街角の自然や風景、
くつろぎ等ほほえましい
写真に挑戦することになり、
頑張っ

ています。

撮影会の親睦、身近な
自然、草花スナップと進
んで取り組みたいと思
っています。

入会ご希望の方は、静
岡市新富町四丁目17.
山本はま子(☎255-1655)
まで、ご連絡ください。

INFORMATION

第21回静岡市民文化祭

●市民ギャラリー

種 目	日 時	場 所	連 絡 先
菊 花 展	5/10(水)～14(日) 10:00～18:00	1・2 展示室	巻本 (254-4075)
華 道 展	5/10(水)～14(日) 10:00～18:00	3・4・5 展示室	水野 (254-8397)
水 石 展	5/17(水)～21(日) 10:00～18:00	1・2 展示室	今春 (261-7397)
ク ラ フ ト 展	5/18(水)～21(日) 10:00～18:00	3・4・5 展示室	小川 (271-9770)
美 術 展	5/24(水)～28(日) 10:00～18:00	全展示室	佐伯 (262-1587)

※ただし最終日は15:00頃まで

●市民文化会館ホール

種 目	日 時	場 所	連 絡 先
劇 団 「 炎 」	5/13(土) 開場18:00 開演18:30	中ホール	栗本 (245-4765)
詩 吟 と 詩 舞	5/14(日) 開場10:00 開演10:30	大ホール	牧元 (282-0477)
劇 団 「 火 の 鳥 」	5/20(土) 開場18:00 開演18:30	中ホール	泉地 (296-1297)
三 曲 演 奏 会	5/21(日) 開場10:00 開演10:30	中ホール	大場 (286-4352)
室内オーケストラのタペ	5/27(土) 開場18:30 開演19:00	中ホール	青嶋 (253-6480)
ロックスペシャルコンサート	5/28(日) 開場18:00 開演18:30	大ホール	平須賀 (251-1234)
劇 団 「 静 芸 」	5/28(日) 開場18:00 開演18:30	中ホール	伊藤 (245-0350)
静岡フィルハーモニー管弦楽団	6/3 (土) 開場18:00 開演18:30	大ホール	石垣 (278-9496)
合 唱 の つ ど い	6/4 (日) 開場13:00 開演13:30	中ホール	宮川 (271-7660)
し ず お か 寄 席	6/10(土) 開場18:00 開演18:30	中ホール	朝倉 (259-7688)
親と子のよい映画をみる会	6/11(日) 開場 9:30 開演10:00	中ホール	堀内 (237-3141)

※都合により開演時間を変更する場合があります。

●市民文化会館展示室・会議室

種 目	日 時	場 所	連 絡 先
書 道 第 一 科	5/10(水)～14(日) 9:00～16:30	全展示室	水野 (252-4901)
俳 画 展	5/17(水)～21(日) 9:00～16:30	A 展示室	松山 (237-2778)
川 柳	5/17(水)～21(日) 9:00～16:30	B 展示室	森 (262-2437)
書 道 第 二 科	5/17(水)～21(日) 9:00～16:30	C 展示室	水野 (252-4901)
写 真 展	5/24(水)～28(日) 9:00～16:30	A 展示室	松浦 (245-6095)
市 民 大 茶 会	5/27(土)～28(日) 9:00～16:30	B・C 展示室 5・6 会議室	横山 (252-0324)
市 民 川 柳 大 会	6/4 (日) 9:00～16:30	大会議室・第3 会議室	森 (262-2437)
授 賞 式	6/25(日) 14:00～	大会議室	

※ただし最終日は15:00頃まで

▶ 問い合わせ先：上記団体または静岡市社会教育課文化振興室内
「静岡市文化団体連合会事務局」をお願いします。
(☎054-254-2197)

主催
静岡市 静岡市教育委員会
(財)静岡市文化振興財団
静岡市文化団体連合会



The Piano of Pianos

選ばれる理由があります。
世界が選んだ「ピアノの中のピアノ」……。
“スタインウェイ&サンズ”

スタインウェイアンドサンズ日本総代理店
株式会社 松尾楽器商会
本社 / 〒105 東京都港区芝大門1丁目9番1号 TEL:03-3436-4331 (代)
関西営業所 / 〒651 神戸市中央区磯辺通2丁目2番10号 TEL:078-221-4071 (代)
名古屋事務所 / 〒460 名古屋市中区栄4丁目16番8号
栄メンバーズオフィスビル507号 TEL:052-241-3664

○「スタインウェイ」のカタログをご希望の方は、お気軽にお申し込みください。
○お求めやすい長期ローンのお取り扱いもしております。

編集後記

情報誌『街かど』も第2号が発刊されることになりました。

編集子に、平たく言わせてもらえば、文化というのは私たちの「暮らし方」「生き方」ということにもなりましようか。

暮らしの中の文化活動を通して聞くことの喜び、知ることの喜び、創作の喜び、活動を通して友を得る喜び、そしてこれらの喜びを多くの人々にサービスする喜び(与える喜び)等が得られるものと思います。

これらは、一人ひとりにとってはかけがえのない「生きがい」であり、市にとっては大きな活力とも言えましよう。

このような輪が広がり、高まっていくために必要なことのひとつが、「情報」だと思います。

文化団体や市民の皆様とのコミュニケーションを盛んにする中で、市民の方々の「声・情報」の盛り込まれた情報誌『街かど』にしていきたいと考えております。事務局は市教育委員会社会教育課内(市役所14階)にあります。どうぞお気軽にお立寄り頂きますようお願いしております。(☎054-255-4746)

静岡文化情報『街かど』 第2号
平成7年2月15日

編集・発行

(財)静岡市文化振興財団

〒420 静岡市追手町5番1号

静岡市教育委員会

社会教育課内

TEL・FAX (054) 255-4746

印刷

株式会社 三創

静岡市中村町166-1

禁無断転載・複写

グランドピアノから、
音が消えた。



¥1,350,000 (ヘッドフォン付/税抜き価格)

黒/鏡面艶出し塗装 寸法:高さ99cm×間口146cm×奥行149cm

アコースティック演奏時のタッチをまったく変えることなく、すぐれた消音演奏機能を実現。ヤマハならではの、グランドサイレントシステムを採用しています。夜は音を消して、思う存分ヘッドフォンレッスンをどうぞ。奥行149cmのコンパクトサイズですから、6畳の子供部屋でも、あ、置ける。グランドピアノが、また身近になりました。

Y A M A H A
SILENT
G R A N D P I A N O
N E W

A1S

YAMAHA

すみや

静岡市小黒2丁目9-10
☎054-282-3911